

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200535		
法人名	(有)アイシン		
事業所名	グループホーム だいこんの花		
所在地	岐阜県関市西神野605番地2		
自己評価作成日	平成27年8月31日	評価結果市町村受理日	平成27年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/index.php?action=kouhyou_detai_2015_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2170200535-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成27年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「そうめん流し」や「おたのしみ会」等、地域の方と交流できていて、ホームが孤立していない。・婦人部の方々の協力で喫茶が毎日、開かれ、地域の方の憩いの場となっている、隣接の「交流センター」には、「カラオケ教室」が月1回開かれ、地域の方と一緒に楽しむ機会となっている(毎年、「歌謡ショー」があり、入居者様は歌の練習を積み、職員・地域の方に支えられて舞台上に立たれる)。・本人・家族・ホームがよい関係を保てるよう努めている。・「明るく家庭的な雰囲気」のなかでその人らしさを大切にしましょう」との理念を念頭に、職員は言葉遣いに気をつけ、笑顔、尊敬する気持ちを忘れないよう努めている。・(本人本意)の支援を心がけている。それは、何を希望され、何に困ってみえるか、(いま)〈ここで〉どのような気持ちでみえるのかなど、声なき声を聴き、対応していくこと、認知症の人の心の世界を理解しようと努め、〈安心〉していただくこと、〈本人らしさ〉=本人固有の生き方を大切にすることである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、言葉使いに気を付けて、利用者の「自己選択」と「自己決定」を大切に、その人らしい生活が送れるように支援している。管理者は、行政の担当者に介護保険法改正の確認や事業所の状況報告、生活保護受給者について相談し受け入れるなど協力関係が築けるように取り組んでいる。事業所内で地域の婦人部が喫茶店やカラオケ教室を開き、多くの住民が訪れ、利用者も参加している。歌の好きな利用者が、カラオケ教室に参加し、発表会に出場できるように支援している。地域の人が建物の周りに季節の草花を育てたり、自治会から依頼があり認知症の勉強会の講師を行ったりして日常的に交流している地域に開かれた事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・「明るく家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしましょう」という理念を目につく玄関に掲示して職員全員が認識していると思われるが、必ずしも実践されていない部分もある。常に理念を念頭に置いて実践できるように務めていきたい。	管理者は、具体的な事例を出し理念の説明をしている。家族から生活歴など聞いて、その人らしく暮らせるように職員間で話し合っている。職員は、その人に合った声掛けの仕方など互いに注意し合い、安心な生活が送れるように心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・「流しそうめん」「クリスマス会」等に地域の方を招き、交流している。 ・毎月、隣接の「交流センター」でカラオケ教室などを楽しんでいる。 喫茶店も行っていて利用し、野菜もいただいている。	地域の婦人部が、隣接する建物で喫茶店やカラオケ教室を開き、利用者も参加している。事業所の行事に地域の人を招いて、利用者と一緒に楽しんでいる。地域の人が建物の周りに季節の草花を育てるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二ヶ月ごとに開催される運営推進会議は、参加者が限られるが、事業所や入居者への理解を図るとともに認知症の人への支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を二ヶ月に1回行っており民生委員、高齢福祉課職員の方、家族の方と情報を交換している。家族の方も参加していただいているが、参加者が少なく大勢の家族にも参加していただきたい、また地域の方にも参加していただきたい。	会議に事業所の取り組みや利用者の状況を報告している。会議の開催日など行政や地域の代表から意見が出され、多くの家族が参加し、活発な意見交換ができるように工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要事項により市の高齢福祉課に相談している。	管理者は、市の担当者に介護保険改正の確認や事業所の状況報告、生活保護受給者について相談し受け入れるなど協力関係が築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・ミーティング等で、何が身体拘束であるかについて少しずつ勉強している。 ・玄関先はいつも開放されている。 ・ホーム内は自由に過ごしていただけるように取り組んでいる。	施錠や言葉による拘束など具体的な行為を会議などで話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。管理者は記録の簡素化を見直して利用者に関わる時間を多くすることが拘束や虐待の防止につながると説明し取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	・ミーティング等で言葉遣いに気をつけるよう適宜確認し、事業所内は職員からの虐待がないか情報を共有している。 ・意識のない虐待や尊厳を傷つけるような言葉遣いを否定できない。 ・高齢者虐待防止関連法についても学んでいきたい。		

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	・成年後見制度を利用して見える方もあり成年後見制度について 職員は学ぶ必要がある。研修の機会を設けるとともに、知識などをもつ職員が皆に伝える必要を感じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者が契約に関し丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・二ヶ月に1回開催する「運営推進会議」でサービスの実態を報告し、参加してもらった家族から意見や要望を伺っている。 ・面会時や電話など、日々の様子を伝え、ご家族の意見・要望を伺っている。 ・利用者から意見や要望を聞くことはなかなか難しい。	家族から信頼を得るために利用者一人ひとりに担当者を付け、家族の訪問時や電話連絡した時に意見や要望を聞いている。しかし、積極的に取り組めず、意見や要望等を運営に反映させるまでには至っていない。	事業所として、利用者や家族の意見や要望等を大切にしたいことを伝える方法の工夫や利用者や家族が意見を言いやすい雰囲気作りの取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ミーティングで職員同士の意見交換をし上司の意見も聞いて話し合い サービスに反映させている。	会議の前に職員から書面で要望や意見などを聞き話し合っている。要望があった高さを変えられるテーブルを購入した。管理者は勤務体制や業務内容・手順の見直しなど職員に問いかけ、意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者は現場に顔を出され、職員の姿を見ておられ、働きやすい職場にさせていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・代表者は職員の向上を図るべく、研修を受講できるように配慮している。またシフトも研修が受けられるように考えられ研修が受けられるようにさせていただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会、グループホーム協議会、市の地域包括支援センター等から情報を得、勉強会にも参加している。		

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居時、安心して生活できる場所と感じていただけようコミュニケーションを取っている。 ・職員同士情報を共有し不安の解消、信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の思いなどを聞き今後の支援を家族と考えていくようにしている。 ・家族の来訪時や電話連絡時に、家族の要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人様や家族の思いを取り入れ今後に必要な支援を考えていく様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・できることは本人様に行っていたら一緒にできることは一緒に行っていたらいい。支えあう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族の来訪時や電話連絡時に、本人さまの生活状況を伝え家族の思いを聞き本人様を支えていくようにしている。 ・家族様との会話情報提供を通しともし支えあっている様な関係を築いている。 ・また一緒に過ごす時間を設けていただくよう家族にお願いしている。 ・本人と家族が遠退いている様子が窺える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・特定の家族のかたの来訪がありお話される。知り合いの方との面会を通し関係作りし継続の支援をしている。 ・家族や知り合いのかたとの面会の場を大切にしよう支援している。	職員は、友人や兄弟・親戚などが訪問した時に居室でゆっくり話ができるようにしている。会話の中で出された名前を家族に伝えて、訪問をお願いするなど関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者様同士、楽しく会話ができるように座る場所などを考え孤立することがないように支援しているが、認知症も進んだ方も有り思いやり等難しい。 ・口論になる利用者様もいるがトラブルにならないように配慮している。		

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所されてもこれまでの関係性を大切にしよう配慮している。 ・サービス終了後も家族様から相談事などあれば支援できるように配慮しているが実行出来ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人様の希望をたずねたり生活の中で思いを把握したりして困難なときどうすべきかを検討するように支援している。 ・本人様の思いや希望を聞き取り出来ることからつとめるようにしている。	日常の会話の中で利用者の思いや希望を聞いている。困難な場合は、家族に生活歴等を聞いて職員間で検討している。得た情報を記録し、職員全員が共有できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・フェイスシート等で、これまでの生活歴や、生活環境、サービスの利用状況等の把握に努め、支援につなげるようにしている。 ・ご家族からの情報も取り入れ暮らしぶりを把握し、サービス利用に繋げられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の日誌の確認、申し送り等による把握、表情や行動の観察に努めている。 ・月1回のミーティングでも現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当者が問題点や気づいたことを提示し話し合いを行いその方にあった介護計画をたてられるようつとめている。 ・モニタリング担当者が本人によりよい生活をしていただくため、ミーティングで意見を出している。	計画担当者は、本人や家族、医師、担当職員に意見を聞き、ミーティング等で話し合い作成している。毎月モニタリングを行っている。状態に変化があれば、家族や担当職員に相談しながら、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・生活の中での変化や様子を記録に記入し情報を分かりやすく提示することにより介護計画の見直しにつなげている。 ・申し送りの時間を設け情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人・家族の状況に応じた柔軟な対応に努めている。 本人の体調が悪くなったり問題がおこった登喜には上司に報告し対応が遅れないようにしている。 ・ボランティアの活用など、今後も検討していきたい。		

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問理美容、往診、カラオケ教室の利用を支援できている。 ・地域資源を把握できていない。今後は地域資源を取り入れていきたい。 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・往診対応の病院をお願いしている。 ・家族の希望があれば、受診や通院の付き添いをし、家族に連絡・報告をしている。 ・受診が必要な際は、家族に連絡し、受診後、家族に結果を報告している。 	事業所は、かかりつけ医との継続を支援し、訪問診療を依頼している。家族同行で受診する時は、メモや医療連携連絡票を渡している。職員は受診の結果は聞いている。家族と相談して、認知症専門医を紹介することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師が居ないため、医療機関に連絡し、指示を仰ぎ、上司に報告し、支援している。 ・毎日のバイタルチェック、食事の摂取量排泄の変化も見逃さないようにしている。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から「かかりつけ医」と情報交換や相談をして連携を深めている。 ・また入院したり、退院したりした後に病院とホームとで情報交換をし家族からも情報を得ている。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームでできないことを入居時より説明している。 ・重度化が現実となったときは、家族と共に話し合いを行っている。 ・医療機関にかかり、終末期の支援に取り組んだ方がみえた。 	契約時に事業所の方針を説明し、本人・家族の理解を得ている。体力・食欲の低下など早い段階から家族、医師と話し合い、事業所の対応を説明している。家族等の要望や状況の変化に応じて事業所として出来ることを支援している。	看取りの研修会を実施したり、重度化や終末期を迎える利用者・家族の要望等を参考に、今後の事業所の方針について、話し合うことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・救急対応事のマニュアルもあるが急変や事故発生の実践力は身につけていないこともある。 ・年1回は、救命救急講習を受講したい。 ・マニュアルが机に挟んであり、毎日見る。 ・応急手当や初期対応の訓練を行われていないためおこなってきたい。 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、消防署や地域の方の協力のもと、避難訓練を実施している。夜間を想定したものも実施できるとよい。 ・緊急連絡網を整備し、定期的に伝達訓練を実施している。 ・消化器もホーム内に設置され非常時には、地域の安田電気様に協力していただける。 ・マニュアルがある。 ・地震や水害の場合は、行っていないので訓練したい。 	地震を想定した訓練や避難訓練など年2回実施しているが、夜間を想定した訓練が実施されていない。近隣の住民等に災害時の協力を依頼しているが、訓練等の協力が得られていない。非常食などの備蓄も用意していない。	夜間を想定した訓練や備蓄など事業所としての災害対策に取り組んで欲しい。地域の方へ幅広く呼び掛けて、訓練等に参加してもらえるような工夫を望みたい。

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの声かけの時本人様に分かるように声かけしている。 ・感情的になられる方には、職員が交代し対応している。 ・声かけには、注意して対応している。 	<p>利用者の「自己決定・自己選択」を大切にしたい声掛けを行っている。言葉使いに気を付け、敬語で話しかけたり。耳元で話したり、筆談したりして誇りを傷つけないようにしている。職員は申し送りや利用者に関する会話が聞こえないように配慮している。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が思いや望みを伝えられるような声かけをするようにしている。 ・本人の希望を取り入れた支援に心がけてはいるが、なかなか本人が思い・希望に対処できないことがある。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援し	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物、外出、入浴等職員側の都合を優先している。 ・個々の生活ペースに添えるように声かけしたりしている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・更衣していただく時も本人様が出来る範囲で選択してもらっている。 ・外出時は、身だしなみに気をつけ支援している。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人から季節の野菜をいただいた時は今日はこの野菜の味噌汁にしましょうかと声をかけるようにしている。 ・高齢になられ食事の準備などや片付けには難しい面があるがたのしく食事出来るように支援している。 	<p>利用者に希望を聞いて、献立を考えている。利用者と一緒におやつを作ったり、家族と外食する機会を設けたりして、食事を楽しむことができるよう支援している。職員も同じテーブルで楽しく会話しながら食事をしている。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養が偏らぬ献立、減塩化、希望に応じた量や大きさ、硬さの調整、ご飯の減量の実施。 ・水分量については、10時と15時、入浴後に飲物を（夏場は夜間にも）、毎食に汁物を提供して、その確保に努め、水分摂取の少ない方へは、何度も摂取を勧めている。 ・毎月の体重測定で、体重の増減に注意している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、口腔ケアを勧め、必要に応じ介助し、清潔保持にきをつけている。 ・訪問歯科から指導を受けている。 		

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェックシートにて排泄パターンをつかみ早めのトイレ誘導をおこなっている。 ・日中は、紙パンツから布パンツに替えていただいている。 ・トイレ使用時、カーテンや扉はすぐ閉めるように配慮している。 	排泄の支援に向けて課題を抽出し職員間で話し合っている。日中は出来る限り布パンツに替え、排泄パターンを基にサインを見極めてトイレ誘導している。夜間もポータブルトイレは使わず、トイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・排便のチェックで3日以上排便のない方には薬を使用する。バナナやヨーグルトを使用した食事の工夫もして便秘の予防に努めている。 ・運動で自然な排便を促すのが望ましいが、高齢となればほとんどできていない。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴チェック表を設け皆さんに平等に入浴していただいている。 ・拒否の場合、無理に勧めないようにしている。 ・入浴を楽しんでいただけるような声かけをしている。 	一日おきに入浴しているが、希望があれば、それ以外にも入浴できる。気の進まない人には、時間や日を変えたり、声掛けする職員を変えたりしている。湯温や入浴時間、入浴剤など利用者の好みを取り入れて気持ち良く入浴できるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の希望の時は、居室で休んで過ごしていただいているが、希望がないとソファーに座ってみえる。 ・各部屋のエアコンの温度調節をしている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・通院記録・薬剤情報を閲覧し、服薬の支援と症状の変化にきをつけている。 ・往診時等に担当医と相談し、家族に日々の様子や変化を伝えている。 ・飲み忘れや、他者のものを誤って飲むことのないよう、担当が他の職員に薬剤を見せ、名前や服薬の時間を確認している。 ・薬剤を飲み易くする工夫をしている。 ・一人一人の薬を理解し支援するようにしたい。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・家事（掃除、洗濯物畳み等）を役割として一人の方に行っていただいている一方、ソファーで過ごされる方が多い。 ・楽しみ事の支援については、レクを通して楽しんでいただいている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・食材の買い出しや米の精米、近場のドライブ等に同行していただいている。 ・日常的な外出支援は、これからも支援して行きたい。 	天候の良い時は近所を散歩している。近隣の人と挨拶を交わし、景色や季節を楽しんでいる。職員と一緒に食材の買い出しに行くこともある。急に一人で外出を希望する人は、職員が付き添っている。	

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人様のお金の所持は、できないが、買い物同行時に、好きな物を選んでいただいている。 ・本人様が、お金を使うことがないため支援できていない。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人・家族と相談して支援している。 ・電話をしたいと希望される方には、事務所で電話をしてあげる支援をしている。 ・家族の了解を得る方もみえる。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関やリビングに季節の花を飾り、玄関に金魚を飼い、廊下に行事の写真を掲示している。 ・掃除をして清潔を保っている。 ・季節感を意識して、カレンダーを作っている。 ・洗面台の鏡も利用者さんが見える位置にある。 	職員は、リビングの室温や外光の強さを気を付けている。建物の周りは地域の人が植えた草花が咲き、窓際には洗濯物が干されていて季節感や生活感が醸し出されている。リビングに利用者が作成した貼り絵やカレンダー、外食や行事など思い出の写真を飾り、話題となるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の部屋やソファ・テーブル席のあるリビングでも、思い思いに過ごしていただいている。 ・コミュニケーションをとれるよう、リビングの座席選択に工夫・配慮している。 ・好きな場所で寛がれるが、トラブルにならないようソファで座られる位置を配慮している。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には、家で使われていた物が置いてある。 ・家族の写真が貼られている部屋もある。 ・使い慣れている物がある居室や全くない居室がある。 ・本人様が居心地良くされるよう支援している。 	家具やマシン、大切にしてきた人形など使い慣れた物、思い出の物を持ち込んでいる。家具等の配置は本人や家族と相談して決めている。洋服掛けに自分が作った服が掛けてあり、着る服を選ぶことを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・浴室やトイレの戸には、わかるように書いてあり、部屋は表札で自分の部屋だとわかるようにしてある。 ・ナースコールがトイレや居室、浴室につけてある ・車椅子を使用される方が増えたが、余分な物を置かぬようにしている。 		